

# 鬼怒川温泉 ジオラマ聖地巡礼旅行記

高校 K.K

## ①はじめに

2023 年のハイスクール国際ジオラマグランプリでは、鬼怒川温泉の「ふれあい橋」付近の光景を再現し、当部史上最高成績である準グランプリを受賞しました。そして、同年の全国高等学校鉄道模型コンテストでは、HO 車輜部門で東武鉄道の SL 大樹の編成(C11 207、ヨ 8634、スハフ 14 1、オハテ 12 2、オハフ 15 1)を作成し、審査員特別賞と投票者が選ぶベストワン賞を受賞しました。

筆者は 2023 年 8 月 18 日に鬼怒川へ行き、ふれあい橋付近を訪れたほか、HO 車輜で再現した編成と同一編成で運転された SL 大樹に乗車してきました。今回はその旅行記をお届けします。

なお、各作品の詳細については、制作代表者が制作記を執筆し、この部誌に掲載していますのでそちらをご参照ください(HPでは、この記事が掲載されているページからご覧ください)。

## ②新型スペースシアで浅草から下今市へ

筆者の住む田園都市線沿線から、「東急東京メトロパス」を利用して半蔵門線→銀座線と乗り継ぎ、浅草駅へ。東武鉄道の浅草駅に向かいます。

(東京メトロ半蔵門線 押上行 渋谷 6:27 発→表参道 6:29 着)

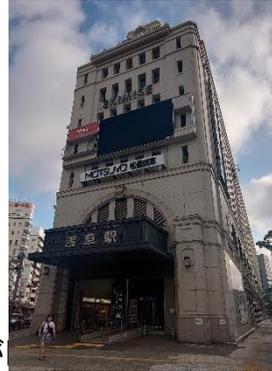
(東京メトロ銀座線 浅草行 表参道 6:31 発→浅草 7:03 着)

ちなみに「東急東京メトロパス」は、東急線の駅から東京メトロとの接続駅(渋谷、目黒、中目黒)までの往復と東京メトロのフリーパスがついた大変お得なきっぷです。田園都市線の駅発着の場合、半蔵門以遠まで往

復するだけで元が取れるため、都内へのおでかけに便利です。

浅草駅に到着。東武鉄道の浅草駅は 1931 年に開業した当時の駅舎がそのまま使われており、とても重厚感のある外観が特徴です。

浅草駅からは、2023 年 7 月 15 日にデビューした新型特急「スペーシア X」に乗車します。5 番線はスペーシア X 専用ホームとなっており、他のホームとは一線を画す高級感ある仕上がりです。日光の自然や荘厳さを感じさせる木目調の装飾を多用したデザインで、社有山林の間伐材を利用し、環境にも配慮しているとのこと です。



7 時 33 分、ついにスペーシア X が入線。扉が



ヶ月前、やっとの思いで確保した「プレミアムシート」。3 列の豪華な座席に身を任せ、下今市駅に向かいます。

(東武伊勢崎線・日光線 特急スペーシアX 1 号 東武日光行

浅草 7:50 発→下今市 9:30 着)

東武伊勢崎線は、浅草から群馬県の伊勢崎へと至る 114.5km の路線で、浅草から東武動物公園までは「東武スカイツリーライン」という愛称がつけられています。スペーシア X は伊勢崎線内 とうきょうスカイツリー、北千住、春日部と止まったのち、東武動物公園から東武日光線に入り、栃木、新鹿沼、下今市と停車します。ちなみに東武動物公園と栃木の間にある南栗橋までは東急田園都市線が乗り入れており、相互直通運転の規模の大きさを実感します。

プレミアムシートの座席は 3 列配置で、東武鉄道初となる電動リクライ

ニングやネックサポート式可動式枕、バックシェル構造を採用しており、JR 東日本の新幹線の最上級座席「グランクラス」にも匹敵する座席だと感じました。他にもスペース X には、100 系スペースから引



き継がれた「コンパートメント」や「ボックスシート」、先頭車両の半分を使用した豪華個室「コクピットスイート」、ドリンクやスナックを嗜みながら前面展望を楽しめる「コクピットラウンジ」など、多彩な座席があります。



スペース X の‘X’について、東武鉄道は「車両エクステリアデザイン」にモチーフとして取り入れた鹿沼組子の象徴的な『X』模様。新型車両による旅体験(Experience)を表す『X』。新型車両がお客様に提供する

様々な価値を表す『X』。Excellent, Extra, Exciting, Extreme, Exceed・・・新型車両が、文化や人々が交わり(cross = 『X』)縁をつくる存在であること。新型車両が、未知なる(X)可能性



を秘めた存在であること。」と説明しています。また、「愛称の決定にあたっては、当社の日光・鬼怒川エリアへの輸送の代名詞としてお客様に長年愛されてきた特急スペースの伝統を維持・継承するとともに、新型車両に期待される役割を象徴した『X』の文字を加えることで、特急スペースの正統進化を想起させるものとししました。」と述べているように、このスペース X は、東武鉄道とその沿線地域のさらなる発展に向けてのフラッグシップとして、強い期待が寄せられていることがわかります。運行開始から 1 ヶ月以上経った 8 月 18 日でも乗車した列車は全車両満席で、滑り出しは上々なのではないかと感じました。

このスペーシア X への期待は、ダイヤにも表れています。「スペーシア X1 号」運行開始前、同時間帯を走る「けごん 7 号」は浅草 8:00 発でした。それを 10 分早め 7:50 発としたのは、まさに筆者が実行した「下今市での SL 乗り継ぎ」を考慮したためだと考えられます。「SL 大樹1号」は下今市 9:33 発。しかし「けごん 7 号」は下今市 9:40 着で、ギリギリ乗り継ぐことができませんでしたが、「スペーシア X1 号」では 9:30 着。しかも発着番線を工夫し対面乗り換えが可能になりました。また、上りも鬼怒川温泉発の SL 大樹から東武日光発のスペーシア X に乗り継ぎが可能です。これにより日光だけでなく SL 大樹が向かう鬼怒川温泉へのアクセスが向上。SL 大樹の利用客増と鬼怒川地域の活性化が見込めるといふ、東武鉄道の素晴らしい戦略には驚きです。

### ③SL 大樹で鬼怒川へ

ということで 9 時 32 分(定刻:9 時 30 分)、下今市駅に到着。この日はスペーシア X が 2 分遅れており、撮影する暇もなくすぐに SL 大樹に乗り換えます。

(東武鬼怒川線 SL 大樹 1 号 鬼怒川温泉行

下今市 9:33 発→鬼怒川温泉 10:09 着)



SL 大樹は、2017 年より運行されている、下今市～鬼怒川温泉間を結ぶ東武鉄道の観光列車です。SL 大樹の他にも下今市～東武日光間を結ぶ SL 大樹ふたら、SL の代わりにディーゼル機関車を先頭にした

DL 大樹も運行されています。また、2023 年の学園祭が開催される 9 月 23 日・24 日には鬼怒川温泉から先、野岩鉄道・会津鉄道を経由して会津若松まで DL 大樹が運行予定です。また、SL も試運



転では会津若松まで運転されており、SL 大樹の会津若松乗り入れも期待されています。

今回乗車したのは、C11 207 号機が牽引する列車。C11 207 号機は 1941 年に製造され、長らく北海道で運行されていましたが、1974 年にいったん廃車に。その後静態保存されていた同機を JR 北海道が、2000 年に復元。SL ニセコ号や SL 冬の湿原号として活躍し、その後東武鉄道が 2017 年に借り受けた車両です。霧が多い北海道日高地方で使われていたため、通常1つの前照灯が2つついているのが特徴です。その前照灯がカニの目のように見えることから「カニ目」と呼ばれています。



SL の後ろには JR 西日本で車掌車として活躍していたヨ 8000 形 8709 が連結されています。東武鉄道では ATS(自動列車停止装置)などを搭載して走行しています。

客車は元 JR 四国のスハフ 14 1・オハテ 12 2・オハフ 15 1 の 3 両。このうちオハテ 12 2 には窓のない展望スペースがあり、開放的な景色と SL 特有のすすの匂いを楽しむことができます。

これらの編成は 2023 年の鉄道模型コンテスト HO 車両部門に出展した SL 大樹の編成とほぼ同一(HO は車掌車がヨ 8634)です。実物を見ると、模型が細部までつくられていることがよくわかります。客車 3 両のうち、オハテ 12 2 のみ塗装が異なっており、模型を見た際は「本当にこんな色をしているのか？」と疑問を持ちましたが、実物を見ると模型と同じ塗色をしており驚きました。作者の再現力には脱帽です。

列車はゆっくりとしたスピードで鬼怒川線を進んでいきます。車内には各車両 1 名専用のアテンダントが乗務しており、沿線案内や検札、記念乗車証の配布を行っていました。ちなみに記念乗車証は SL 大樹 6 周年を記念した数量限定の特別デザインで、列車により異なります。記念乗車証にはアテンダントの方に日付入りのスタンプを押していただけるため、旅の思い出にはぴったりです。また、車内販売も行われており、車内限定の

SL 大樹グッズなどを販売していました。

途中駅は東武ワールドスクウェアのみ。36 分の乗車時間はあっという間に過ぎていきます。同区間を走る普通列車の所要時間は 25 分前後なので、いかに SL 大樹がゆっくり走行しているかがわかります。

10 時 9 分、鬼怒川温泉駅に到着です。

鬼怒川温泉では下車後にも外せないイベントがあります。それが「転車台」です。電車や気動車はすぐに反対方向へ折り返すことができま



すが、SL は向きを変え、客車の前に連結し直さなくてはなりません。そのため、鬼怒川温泉駅前にある転車台で、ヨ 8709 とともに向きを変えます。

この転車台は、広島県にある JR 西日本三次駅に 1933 年から 1999 年まで設置されていたもので、SL 大樹運行開始にあわせて東武鉄道に譲渡されたものです。

転車台を取り囲むように多くの人を前に、SL が入線。数回汽笛の吹鳴も行われ、けたたましい音が響いていました。

#### ④ふれあい橋付近の景色

鬼怒川温泉駅からはハイスクール国際ジオラマグランプリに出展したジオラマもモデルであるふれあい橋へ徒歩で向かいます。鬼怒川温泉駅から川治温泉・湯西川温泉方面の路線バスでもアクセスできます。線路沿い



の道を 15 分ほど歩くと、ジオラマで見覚えのある「鬼怒川観光ホテル」の看板が見えてきました。

その後すぐに、ふれあい橋に到着。鬼怒川に架かるふれあい橋を中心に、

鬼怒川温泉・山楽と鬼怒川観光ホテル、ほてる白河湯の蔵があり、まさにジオラマの中にあるような光景が広がります。



ジオラマの正面から見て左奥の建物と左側の吊り橋は実際にはふれあい橋付近にはなく、少し上流側に進んだ場所にあるので、その場所にも向かいます。

路線バス「第一ホテル前」停留所のすぐそばにあるのがジオラマでは正面左奥にある廃墟の「きぬ川館本店」です。



ジオラマでは、廃墟を表現するため、客室の窓ガラスをイメージしたプラ板にキズをつけたり、ウェザリングマスターを使って汚れをつけたりしています。

鬼怒川温泉は、バブル期の過剰な設備投資やバブル崩壊後の観光客の減少により廃業したホテル・旅館が多く、所有者の問題や鬼怒川の斜面に



建てられた特異な構造から解体が難しく、今でも多くの建物が廃墟として残されています。この「きぬ川館本店」もその一つで、巨額の投資により30億円まで膨れ上がった負債に耐えきれなくなった経営者が従業員を残して逃亡。その後、残された従業員が自転車操業で営業を続けたものの1999年に倒産。逃亡した経営者は現在も見つかっておらず、そのため解体ができず廃墟化してしまいました。鬼怒川温泉エリア最大の廃墟ともいわれています。廃墟マニアが建物内に立ち入る事案も多く、「立入禁止」の貼紙が複数箇所に貼られていました。

鬼怒川温泉を歩いていると、本当に廃墟が多い印象です。営業しているホテルよりも廃墟が多い場所も多く、異様な雰囲気漂っていました。宿泊したホテルの目の前に廃墟があったら、やはり観光客の方々は不快に思うでしょうし、廃墟が増えると治安の悪化も懸念されます。全国には同じような問題を抱えるリゾート地が多くあります。また、白馬通る大糸線、野辺山・清里を通る小海線など、かつては大都市から多数の臨時列車が運転されていた一方で、現在では赤字になっている路線も多くあります。かつての賑わいを取り戻すためにも、このような問題は早急に解決していく必要があると思います。そのためにも、私たち若者が積極的に関心を持つ必要があるかもしれません。

その後徒歩でさらに上流へ向かうと、滝見橋という吊り橋があります。路線バスでは「吊り橋入口」停留所が最寄りです。木製で、30名以上歩行禁止という古い吊り橋です。ジオラマでは、木製の質感をしっかりと再現しています。兩岸にある支柱も紙を手で切ってつくられており、こちらも注



目ポイントです。

渡って向こう岸にある滝見公園に行ってみたかったのですが、川面からの高さがとても高く、一人で歩いただけでも大きく揺れるため、渡る勇気が出ませんでした…

さらに上流に数分歩くと、鬼怒川温泉駅の隣、鬼怒川公園駅に到着します。普通列車で鬼怒川温泉駅に戻り、昼食をいただきます。

(東武鬼怒川線 普通 下今市行

鬼怒川公園 11:40 発→鬼怒川温泉 11:44 着)

## ⑤鬼怒川温泉駅前で小休憩



今回は駅前にある飲食店「杉ん子」でゆばそば(950 円)を購入。日光エリア名物の湯葉と冷たいそばが身体を心地よく冷やしてくれます。



その後は駅前の鬼怒川・川治温泉観光情報センターで SL 大樹のロゴが入ったタオルを購入。トミーテックが展開する各鉄道事業者の制服を着たキャラクター、「鉄道むすめ」の鬼怒川みやび(特急スペーシア車掌)と大桑じゅり(SL 大樹機関士)の等身大パネルが設置されていました。

## ⑥再びふれあい橋へ

再びふれあい橋に戻り、今度はほてる白河湯の蔵の日帰り温泉へ。14時から日帰り入浴を行っており、1000円でサウナと露天風呂のついた温泉に入浴できます。



湯の蔵の「羽衣の湯」は無色・無味無臭のアルカリ性単純泉で、火傷に対する効能があるとされています。他にも、筋肉痛、疲労回復、腰痛、神経痛、関節痛などに効果があります。

汗を流し、鬼怒川温泉駅に戻ります。

## ⑦下今市駅とその周辺

鬼怒川温泉駅からは下今市行の SL 大樹に乗車。下今市へ向かいます。  
(東武鬼怒川線 SL 大樹 6号 下今市行

鬼怒川温泉 15:05 発→下今市 15:44 着)

15時44分、下今市駅に到着。



下今市駅は、SL 大樹運行開始にあわせて、SL が走っていた時代を彷彿とさせる昭和レトロ感のある駅舎にリニューアルされました。駅構内に



は鉄道産業文化遺産となった旧跨線橋が、「旧跨線橋ギャラリー」として整備されています。駅の各種案内表示のフォントもレトロ感のあるフォントに変更されており、こだわりを感じます。また、SL を間近で見学できる転車台広場があり、SL の仕組みや、東武鉄道の SL について学べる展示館も併設されています。

下今市駅の転車台は、鬼怒川温泉駅と同じく JR 西日本から譲渡されたもので、こちらは山口県の長門市駅に 1958 年から 1974 年まで設置されていました。

## ⑧先代のスペーシアで北千住へ

下今市駅を一通り見学したのち、100 系スペーシアけごんで北千住へ向かいます。

(東武日光線・伊勢崎線 特急けごん 46 号 浅草行

下今市 17:52 発→北千住 19:21 着)



東武鉄道 HP「特急スペーシアについて」より

往路で乗車したスペーシア X の先代にあたる車両です。1990 年に登場し、3 号車にビュッフェ(現在は廃止)、6 号車にコンパートメントシート(4 人掛けのボックス個室)を備え、

座席はカーペット敷き、フットレストを装備するなど現在でも見劣りしない豪華な車両です。1960 年に登場し、国鉄との日光競争を勝ち抜いた 1720 系デラックスロマンスカーの後継として開発されました。コンパートメントやビュッフェは、スペース X にも受け継がれており、東武特急の代名詞となっています。



東武鉄道 HP「特急リバティについて」より  
ブルに活躍し、鬼怒川温泉の先、会津田島まで乗り入れる 2017 年登場の 500 系リバティ(けごん・きぬ・会津・スカイツリーライナー・ア

現在東武特急はこのスペース X (けごん・きぬ・スカイツリーライナー・アーバンパークライナー)とスペース X、そして各路線でフレキシ



東武鉄道 HP「特急りょうもうについて」より  
ーバンパークライナー)、伊勢崎線赤城方面に使用され、床下の一部主要機器を 1720 系の廃車発生品を流用している 1990 年登場の 200 系(りょうもう)が使用されています。このうち 100 系と 200 系は登場から 30 年以上経過しており、サービス面でも陳腐化が目立ち(トイレが和式中心など)、近いうちに新型特急車両が導入される可能性があり、目が離せません。

東武鉄道 HP「特急りょうもうについて」より

とはいえスペースはとても快適で、あっという間に北千住に到着しました。

この後は、北千住から半蔵門線・田園都市線直通の急行列車に乗り、帰路につきました。

## ⑨おわりに

鬼怒川温泉への旅行記、いかがでしたか。今回、ジオラマを作成した場所に直接訪れたことで、ジオラマの世界を歩いているように感じ、いつもと違う視点で車両や観光地を見ることができました。また、現地の雰囲気や建物の詳細もよく分かり、改めてジオラマ作成時の現地視察の重要性

を感じました。筆者は高校 2 年のため、2023 年度をもって部活動への参加は終了しますが、下級生たちには「現地の雰囲気伝える」「思い出を思い出させる」「感動させる」ジオラマを作れるよう、頑張ってもらいたいと思います。

## ⑩おまけ

東武鉄道は路線長が私鉄で 2 位という広大な路線網を有していることから、JR と同じく学割乗車券の制度があります。各駅の窓口で購入できますが、他駅発・利用日前の購入の場合は、乗車券の区間が含まれる特急券を同時購入するか、既に購入した特急券を提示する必要があります。また、学割証の「往復」は利用できず、片道ごとに学割証を用意する必要があります。特急停車駅では、浅草～新鹿沼以遠、浅草～赤城以遠が 100kmを超えますので、学割乗車券の利用を推奨します。



今回使用した乗車券類

最後までご覧いただき、ありがとうございました。

## 《参考文献》

東武鉄道(2023)「新型特急スペーシアX(SPACIA X) 特設サイト」

<https://www.tobu.co.jp/spaciax/>

東武鉄道(2023)「特急スペーシアについて」

[https://www.tobu.co.jp/railway/special\\_express/vehicle/spacia/](https://www.tobu.co.jp/railway/special_express/vehicle/spacia/)

東武鉄道(2023)「特急りょうもうについて」

[https://www.tobu.co.jp/railway/special\\_express/vehicle/ryomo/](https://www.tobu.co.jp/railway/special_express/vehicle/ryomo/)

東武鉄道(2023)「特急リバティについて」

[https://www.tobu.co.jp/railway/special\\_express/vehicle/revaty/](https://www.tobu.co.jp/railway/special_express/vehicle/revaty/)

東武鉄道(2023)「SL大樹公式サイト」

<https://www.tobu.co.jp/sl/>